

ひきこもり

支援のための

ネットワーク

づくり



東京都多摩府中保健所

はじめに

近年、社会の多様化が進む中で、ひきこもりに関する相談や支援のニーズは、年齢や背景を問わず、ますます多様化しています。こうした状況を踏まえ、国ではひきこもり支援を地域における重要な課題の一つと位置づけ、関係機関のネットワーク構築や相談支援体制の強化に取り組んでいます。

厚生労働省が示した「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～」では、支援に関わるすべての人が共通の視点を持ち、本人や家族に寄り添いながら伴走するための基本的な考え方が示されており、自治体や支援機関での活用が進められています。

多摩府中保健所においても、ひきこもりの状態にある方やそのご家族が抱える悩みの多様さ、また、自治体をはじめ、保健・医療・福祉・就労・教育など、さまざまな関係機関が試行錯誤しながら支援を行っている現状を踏まえ、分野や官民の枠を超えた支援ネットワークの構築が重要であると認識しています。

本書は、地域においてネットワークを構築する際の参考として活用していただくことを目的に作成しました。

今後も、ひきこもりの状態にある方を含め、生きづらさを抱える方々を支え、地域共生社会の実現を図ることが求められています。保健所は、地域の皆様と協働しながら、引き続き取組を推進してまいります。

最後に、本書の発行にあたり、ご指導・ご助言をいただいた明治学院大学 関水徹平先生ならびに、地域の皆様に心より感謝申し上げます。

東京都多摩府中保健所長
田原 なるみ



目次

はじめに	1ページ
目次	2ページ
1 本冊子の目的と活用方法	3ページ
2 ひきこもり支援と支援ネットワーク構築の考え方	
1 ひきこもり支援とは	4ページ
2 ひきこもり支援ネットワークの考え方	4ページ
3 基礎自治体におけるネットワーク構築のポイント	5ページ

● 取組編

1 ひきこもり支援ネットワーク推進の取組事例

- 1 A市の取組～コアメンバーの誕生から始まるネットワークづくり～ 7ページ
コラム 「ネットワーク会議立上げのプロセスを通じて」：A市社会福祉協議会
- 2 B市の取組～既存の重層的支援体制を活用したネットワーク推進～ 9ページ
コラム 「柔軟で切れ目ない支援体制を目指して」：B市ひきこもり支援主管課

2 ひきこもり支援ネットワーク推進のためのツールと活用方法

- 1 ひきこもり支援に関するアンケート 12ページ
- 2 ひきこもり支援に関するヒアリング調査シート 13ページ
コラム 「ヒアリングがつながりを生む～顔がみえる関係から相互理解へ～」：B市ひきこもり支援事業所
コラム 「ヒアリングから見えた、課題の多様化と連携支援の可能性」：B市地域若者サポートステーション
- 3 ひきこもり支援事例シート 15ページ
- 4 ひきこもり支援ネットワーク推進のための事例検討シート 16ページ
コラム 「制度のはざま、連携のあり方を意識した事例検討を通じて」：B市社会福祉協議会
- 5 ひきこもり支援ネットワーク推進のためのグループワークシート 17ページ
コラム 「グループワークから考える自機関の強みと多職種連携」：B市教育主管課

● 解説編

明治学院大学 社会学部 准教授 関水徹平

ひきこもり支援と支援ネットワーク構築の考え方

- 1 ひきこもりという概念の難しさ 19ページ
- 2 本人にとってのひきこもり経験 21ページ
- 3 ひきこもり支援の基本的な考え方 22ページ
- 4 基礎自治体におけるネットワーク構築のポイント 25ページ
- 5 まとめ 30ページ

● 資料編

- 1 ひきこもり支援に関するアンケート 33ページ
- 2 ひきこもり支援に関するヒアリング調査シート 37ページ
- 3 ひきこもり支援事例シート 38ページ
- 4 ひきこもり支援ネットワーク推進のための事例検討シート 39ページ
- 5 ひきこもり支援ネットワーク推進のためのグループワークシート 40ページ

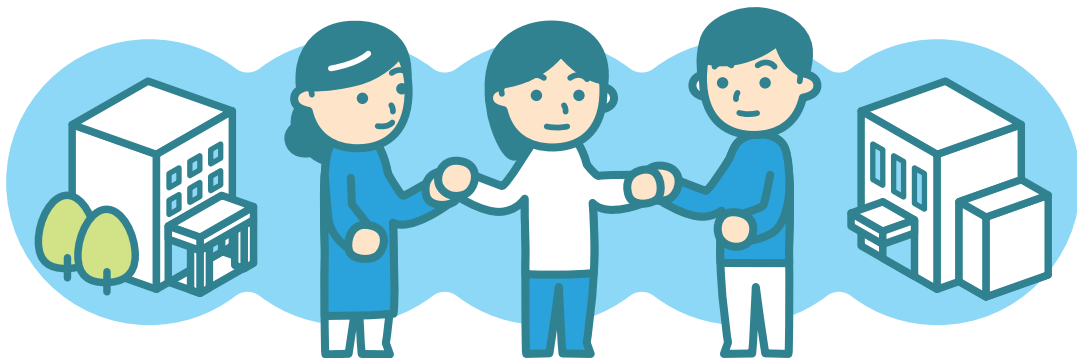
1 | 本冊子の目的と活用方法

本冊子は、地域の実情に応じたネットワークの構築及び推進を目指し作成しました。ひきこもり支援ネットワークが未構築の自治体だけでなく、既にネットワークが構築されている自治体においても、さらなるネットワーク推進の参考となる内容になっています。

ひきこもりは複合的な課題を抱えている場合が多く、支援が長期に渡ります。「ひきこもり支援と支援ネットワーク構築の考え方」(P.4～)では、ひきこもりを社会構造の視点から捉え、支援ネットワークの意義とネットワーク構築のポイントについてまとめています。

「ひきこもり支援ネットワーク推進の取組事例」(P.6～)では、背景の異なる2市において実際にネットワーク推進に取り組んだプロセスを、「ひきこもり支援と支援ネットワーク構築の考え方」を踏まえてまとめました。皆様の自治体における支援ネットワークの現状と照らし合わせながら、課題整理や今後の取組を考える際にご活用ください。

「ひきこもり支援ネットワーク推進のためのツールと活用方法」(P.12～)では、2市の取組において実際に使用した調査用紙や事例シート等、各種様式を掲載しています。「活用時のポイント」を参照しながら、ネットワーク上の課題整理、多機関連携に関する議論や相互理解を深めるためのツールとしてお役立てください。



本冊子における「支援ネットワーク」とは

地域における保健活動として保健師は、分野横断的に本人や家族の持つ力、健康上や生活上の課題をアセスメントし、地域の関係者と連携して支援にあたっています。さらに、個別支援活動を通して把握した健康課題から地域課題を見出し、関係者と協働しながら、地域全体で地域課題に対応するための地域ケアシステムの構築を目指し取り組んでいます。

ひきこもり支援においても、個別事例ごとに対象者の特徴を丁寧に見極め、関係機関と連携しながら本人及び家族の自律を目指した支援を行うとともに、個別事例への支援の積み重ねから、地域の共通課題を明らかにし、本人や家族が安心して生活できる「地域づくり」の視点を持って長年にわたり活動しています。ひきこもり支援は、教育や福祉等の支援制度や支援体制が多岐に渡るため、行政内での組織横断的なマネジメントや、当事者団体等の多様な機関による取組を総合的にマネジメントする機能も求められます。

そこで、本冊子では「支援ネットワーク」を「地域の共通課題に取り組むためのネットワーク」と定義し、本人や家族が安心して生活できる地域づくりを目指すための内容としてまとめました。